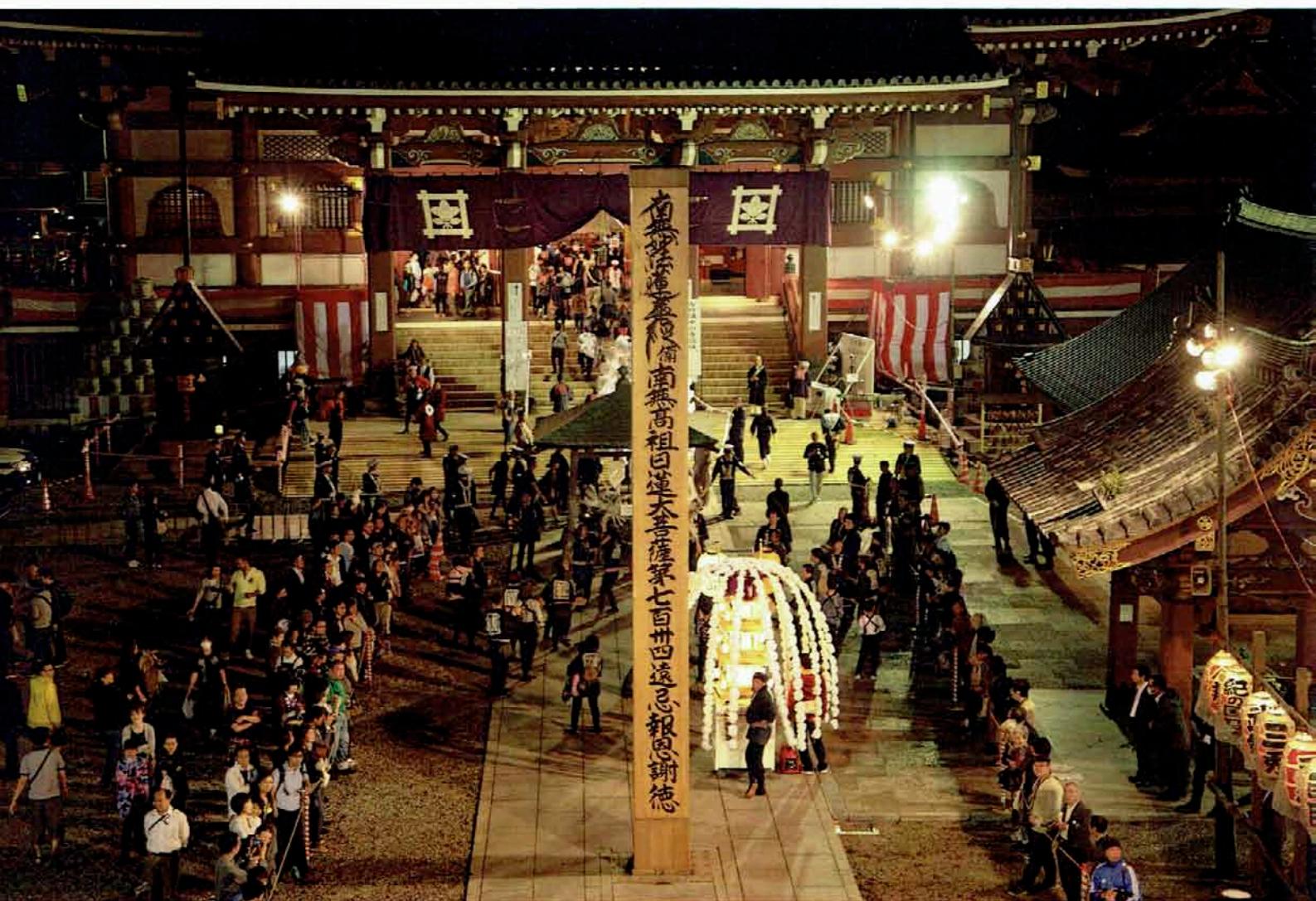


Nanbu

第7号
2015.11



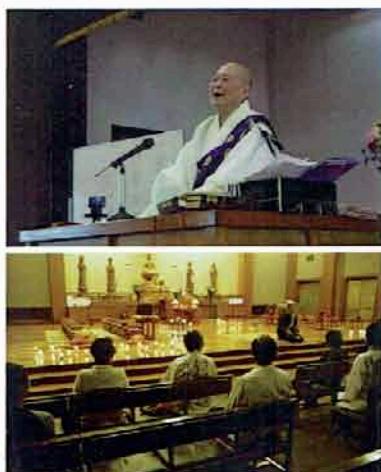
南部管内 News

宗務所：教区檀信徒研修道場	P2
修法師会：北米開教百周年慶讚法要	P3
日青会：結成五十周年報恩行脚	P3
管内：日源上人七百遠忌法要	P4
宗務所：教師研修旅行	P4
社会活動部会：東日本大震災被災地慰靈法要	P5
宗務所：管区檀信徒研修道場	P5
【宗務所からのお知らせ】／編集後記	P6



Nanbu Headline 南部管内 NEWS

南部管内の寺院や各会で行われた
平成26年度の行事や催しを紹介します



宗務所

教区檀信徒研修道場

五月二十四・二十五日

第

三十一回京浜教区檀信徒研修道場が、平成二十六年五

月二十四日から一泊二日の日程で、大本山池上本門寺にて開催され、檀信徒ら五十余名が参加しました。

午前十時半より、大堂にて京浜教区長・東京都南部宗務所長・石井隆康師（目黒区立源寺住職）を導師に開講の法味言上。続いて朗峰会館に会場を移し、池上幸保全国檀信徒協議会長の挨拶の後、研修が始まりました。

テーマは「一泊修行」。日常生活を離れ、初夏の本門寺に参籠して、法華経とお題目の修行を体験して頂きます。その一環として、まず数珠のかけ方から、合掌の意味や仕方などの所作指導が行われ、食事の配膳や後片付けも参加者で分担しました。



初日は午後に行い、夜は本殿にて唱題行に励みます。戸澤宗充師（一華結社教導）の琵琶を用いた独特の高座説教に、参加者は深く傾きながら耳を傾けていました。

夕食後の唱題行は、キャンドルアーティストによつて、色や大きさの異なる様々なキャンドルが堂内に灯され、幻想的な雰囲気の中で行われました。終了後、「とても静かな気持ちで初日を終えることができました」と、穏やかな顔で自室へ戻つていく参加者の姿が印象的でした。

二日目は四時半に起床し、本門寺の朝勤に参加。続いて大坊本行寺において大祈禱会が行われ、その後池上本門寺の山内寺院を僧侶とともに唱題行脚し、無事に一泊二日を終えました。

参加者の一人は、「最初は修行の多さについていけるか不安だったが、沢山のこととを体験できてとても良かった」と満足した様子で会場を後にしました。

今回は中学生を始めとして、参加者の年齢層は幅広く、年代を問わず、多くの人がお寺での生活や修行に対しても関心を寄せていることを実感できた研修道場となりました。

北米開教百周年慶讚法要

六月二十八・二十九日



アメリカという遠く離れた地に、大正三年（一九一四）ロサンゼルス日蓮宗教会が創立されました。

平成二十六年六月二十八日北
米開教百周年慶讚世界和平
祈願法要がロサンゼルス身延山
米國別院にて導師・金井勝海北
米開教区長・修法導師・稻荷泰
雅東京都西部修法師会会长・式衆
には東京修法師会有志のもと嚴
修されました。

先師(僧侶)や関係者・檀信徒たちの血と涙の努力によるお題目の信仰が百年の長きに渡り受け継がれており、まさに命がけの海外布教・寺院護持であつたと

百年間の敬意を表し、我々もまた一層精進を重ね一人でも多くお題目を広めていこうと固く決心をした次第です。

結成五十周年報恩行脚

九月二日(十八日)



弘安五年、日蓮聖人が病氣療養の為、身延から池上宗仲邸にご到着された史実に基づき、總本山身延山久遠寺から大田区池上の本山大坊本行寺まで、総距離約二五〇kmを唱題行脚しました。

九月二日に身延山の御廟所を出発した行脚隊は、九月九日までの七日間をかけて山梨県内を行脚。道中では日蓮聖人が立ち寄られたとされる史跡を巡り、宗門寺院 本國寺（山梨県南巨摩郡）、蓮華寺（山梨県富士川町）、妙石庵（山梨県甲府市）を参詣しました。

九月十日からは現在法華宗宗

(神奈川県南足柄市)、要法寺
(神奈川県平塚市)、妙光寺(神
奈川県横浜市瀬谷区)、の宗門
寺院三ヶ寺を参詣。

九月十三日には主に中原街道
を行脚し、無事に洗足池にある
妙福寺(東京都大田区)に到着。
そして十八日、大坊本行寺の御
入山会の法要に参列し、その後、
同寺旅着堂にて報恩行脚記念事
業完遂の御礼言上と、残す記念
事業の遂行を祈願し、無事にす
べての行程を終えました。

急勾配の峠や、左右に蛇行す
る坂道など、険しい道のりも多
かつたですが、ご病気のお体で
歩まれた日蓮聖人を思い、一人
でも多くの法華経やお題目に縁
のない方々に行脚の姿、お題目
の声を届けるべく、行脚隊は一
歩一歩力強く歩みを進めました。

十一日間の道中では一心に手
を合わせ見送り、応援して頂い
た方々とのご縁、様々なご供養
して頂いた方々、あるいはご淨

を合わせ見送り、応援して頂いた方々とのご縁、様々なご供養して頂いた方々、あるいはご淨財をご寄進頂いた方々とのご縁を頂きました。そうしたご縁に出会う度に、会員一同の心は感謝の念であふれ、改めて日蓮聖人の末弟の自覚をし、今回の行脚をはじめ、様々な青年会事業は当会会員一同の力だけでなく御題目でつながる多くの方々の支えによつて成し得た事であるという事を身に染みて感じるものとなりました。

(神奈川県南足柄市)、要法寺
(神奈川県平塚市)、妙光寺(神
奈川県横浜市瀬谷区)、の宗門
寺院三ヶ寺を参詣。

日源上人七百遠忌法要

九月十三日



日蓮聖人の直弟子で、中老僧の一人である日源上人の第七百遠忌報恩法要が、九月十三日に日黒区の中根立源寺（石井隆康住職）で営まれました。

日源上人は、当時天台宗寺院であつた駿河国岩本實相寺の学頭職にあつたことで知られ、日本聖人に歸依して後、武藏碑文谷の天台宗法服寺を法華寺（現在の天台宗圓融寺）へ、雜司ヶ谷の真言宗威光寺を法明寺に改宗する等、各地で法華經信仰を弘められました。

日源上人が改宗した法華寺は、江戸期には末寺七十五ヶ寺を数えましたが、不受不施論争の際、悲田不受不施を貫いたため、幕府の命により天台宗へと改宗。末寺は法華寺とともに天台宗に改宗した寺院以外は身延山の末

寺となり、今日に至ります。

法華寺の旧末寺にあたる、中

常圓寺・西小山摩耶寺の四ヶ寺

は、日本寺開山の日源上人と法

華寺歴代上人への報恩感謝を捧げ

げるべく、三十年前より毎年九

月十三日の日源上人の命日に圓

融寺を参拝。境内の日源上人の供養塔の前で読經唱題を務めて

きました。今年七百遠忌を迎

るに際し、同じく旧末寺である

雜司ヶ谷法明寺（近江正興住職）

とともに五ヶ寺で御報恩奉行会

を立ち上げ、この度の報恩法要

が実現しました。

併せて日源上人の遺徳を顕彰する記念誌の編纂も計画し、靈跡本山岩本實相寺の豊田日穂貫首にもご協力を仰ぎ、立正大学仏教学部教授・寺尾英智師に執筆を依頼。日源上人に関する資料を一堂に会した『日源上人とゆかりの寺院』を刊行しました。

当日は、午前九時に四ヶ寺の

住職と副住職の八名が供養塔の前で読經を行い、午後一時より立源寺にて第七百遠忌報恩法要を厳修。導師に石井隆康師、副導師に池田是祥師と古河良皓師のもと、四ヶ寺の副住職が式衆を務めました。

その後は震災當時「社会活動部会」などで炊出し等させて頂いた、小千谷市内の「松涼寺」様にて、東京都南部宗務所、石井隆康所長導師のもと、中越地震物故者慰靈、復興祈願法要をさせて頂きました。松涼寺様のお堂は震災当时と変わりなく、住職の平山上人には震災

教師研修旅行

十一月十三・十四日

平成二十六年度、東京都南部

宗務所、教師研修旅行が十一月十三日～十四日の日程で開催されました。今回は中越地震

より十年経過した小千谷市を中心

に復興状況や慰靈法要等をさ

せて頂きました。

一日目は小千谷市にあります

「おぢや震災ミュージアムそな

え館」に行き、館内職員の方に

説明や震災時の体験、シミュレー

ターによる疑似体験等させてい

ただきました。

館内施設は時間経過ごとに刻々

と変わる被災地の状況や頻発す

る余震の恐怖、地域の人々との

復興までの様子、避難所での生

活など実物やパネル展示で詳しく述べて顶きました。

翌十四日は本山、村田妙法寺

宗務所にて御開帳をして頂きました。

その後は柏崎にあります、番神

堂様にてお経を上げさせていた

だき、帰路につきました。

マグニチュード6.8最大震

度7、六十八人の犠牲者を出した、中越地震から十年が経過しました。十年間に中越沖地震、東日本大震災、最近では長野県北部の地震等頻繁に地震や災害が発生しています。その中で災害というものに対してどう対応して、どう伝え、何ができるかを再び考えさせてもらえる研修になりました。

当時のお話などを頂きました。



被災地慰靈法要

【平成二十七年】三月十一日

社

会活動部会は三月十一日に岩手県釜石市の仙寿院にて青森日青会と共に東日本大震災の追善法要に出座し、翌十二日には宮城県女川市の仮設住宅にて東京都東部防災部と共に慰靈法要、また震災によつて流された位牌の閉眼供養を行いました。

仙寿院は震災当初、地域住民の避難場所となつており、また当会を始め東京都南部各会、各聖が瓦礫の撤去作業や火葬場にて亡くなつた方への回向供養をする際、宿泊する場としてもご提供をいただきました。

午前十一時、法要が厳收されました。本堂は大勢の遺族の方々が参列し、共にお題目をお唱え致しましたが、すすり泣く声も聞こえ遺族の方々の心の悲しみが伝わつてくるのが身に染みて感じました。

法要終了後、仙寿院住職 芝崎惠應上人と共に釜石市沿岸部を慰靈行脚し、その後、仙寿院境内にて震災の発生した十四時四十六分にあわせ、回向供養を致しました。

翌十二日、午前十時、私達は東京東部防災部と共に女川市の仮設住宅にて慰靈法要を行いました。



管区檀信徒研修道場

【平成二十七年】四月二十四日

四

月二十四日に、日蓮宗東京都南部宗務所主催の檀信徒研修道場が町田市妙延寺（金子延生住職）で行われ、檀信徒約六十名が参加しました。

本年の道場のテーマは「日蓮聖人の魂にふれる一日」。まず、大本山池上本門寺の日蓮聖人御尊像に、夏物と冬物の白衣を奉納している「武相御召講」について、講長の五十子孝一氏より講話がなされました。

「武相御召講」はその名の通り、古くは旧武藏国・旧相模国の信者達によって組織された講中。元々御尊像の御召服は、徳川御三家の一つ紀州家が代々奉納していましたが、明治維新後に同講中に引き継がれ、以来、夏のお召服は四月二十八日の立教開宗の日に、冬のお召服は日蓮大



聖人ご入滅前日の十月十二日に奉納されています。五十子講長は「およそ一五四年続く由緒ある講中を次世代へと繋げるためには、もつと多くの方々に知つて頂きたい。そしてこれからも力の続く限り日蓮大聖人へご給仕させて頂きたい」と同講中への誇りと熱き思いを語られました。

続いて大本山池上本門寺参拝部執事・梅本明宏師（町田市蓮清寺）より、約十五年間お召服の奉納に携わった経験談をお話頂きました。この間、堂内には実際にお召になられている日蓮大聖人御尊像の御衣が並べられ、その美しい衣の色に参加者からは感嘆の声があがりました。

午後からは講談師の一龍齋貞鏡師による『日蓮記』の講談が行われました。貞鏡師の張りのある声と躍動感ある身ぶり手ぶりを交えた講談に参加者たちは引き込まれ、日蓮聖人の御生涯を心身共に体験しました。

最後に、東京都南部修法師会総勢十三名の修法師による御祈祷が行われ、引き続き修了証が参加者に授与され、無事に閉会となりました。参加者の一人は「自分の身近な地域に日蓮聖人とのご縁があるとは知らなかつた。多くの僧侶による御祈祷も頂き、また新たな気持ちでお題目とともに生きていきたい」と充実した顔を見せました。

宗務所からのお知らせ

南和会のご案内

東京都南部年番
京浜教区檀信徒協議会研修会

寺町ウォーキング



Copyright ©2010 HAPPO-EN



※詳細は宗務所より、おつて
ご案内致します。

記
一、月日 一月二十九日（金）
※平成二十八年
一、時間 午後六時 開宴
一、場所 八芳園『白鳳館』
港区白金台一、二、三、四、五
〇三・三・四・四・三・三・二

一、月日 一月四日（木）
※平成二十八年
一、会場 立源寺

新年に際して多忙のところ、
誠に恐縮ながら万障お繰り合
わせの上、何卒ご出席賜りま
すようご案内申し上げます。

毎年恒例となりました「南
和会」（日蓮宗東京都南部宗
務所新年会）を左記の通り開
催致します。

平成二十八年一月四日に、
東京都南部年番、京浜教区檀
信徒協議会主催の「立正安國・
世界平和・檀信徒の集い」が
開催されます。

当日は、楠山泰道師（横須
賀市大明寺）の記念講演、一
龍斎貞鏡師による講談も行わ
れます。

詳細についてはおつて宗務
所よりご案内致します。檀信
徒の皆さまをお誘い合わせの
上、奮ってご参加ください。

[第一回] 一月六日（土）
コース 荘原町（都立大学）
テーマ 臨終と看取り
[第二回] 四月二日（土）
コース 池上本門寺周辺
お骨とお墓

[第三回] 六月四日（土）
コース 蒲田（羽田）

テーマ お寺とお葬式

宗務所主催による「みんな
で歩いて考える終活寺町ウォー
キング」が来年から三回にわ
たって開催されます。

葬儀やお墓についての考え
方は年齢や立場によって違う
もの。そこで僧侶同伴でお寺
を訪ねながら終活を考えます。
入棺体験・墓めぐり・模擬
葬儀など特別イベント盛りだ
くさん。人生を見つめ直すブ
チ巡礼に出かけませんか？

本号の記事は、各会各聖が宗務所のHPに寄稿した記事
と、新聞通信員が執筆した記事で構成されています。

編集後記

大変遅くなりましたが、第7号が発刊できました。記事・写真を提供して頂いた各聖には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。（古河良啓）

本年度より通信員となりました磯野です。南部管内皆
様のご活躍を遠方町田より誠心誠意伝えてまいります！
(磯野善誠)

Nanbu 第7号
平成27年11月

発行 日蓮宗東京都南部宗務所

〒152-0031

東京都目黒区中根2-21-17
(立源寺内)

電話 03-3717-1387

FAX 03-3724-7284

宗務事務所
〒146-0082
東京都大田区池上1-1-1
(大本山池上本門寺内)
電話 03-3753-5547
FAX 03-3754-1825